

児童養護施設職員指導者研修

1 目的

児童虐待に関する知見を深め、児童養護施設での適切な援助のあり方を検討し、施設における中心的、指導的職員としての資質の向上を図る。

2 テーマ 「虐待が子どもの発達に及ぼす影響」「被虐待児と虐待する親への理解と援助」
「職員のチームワーク」

3 対象 児童養護施設で指導的立場にある主任指導員・主任保育士・家庭支援専門相談員・個別対応職員等

4 期間 平成20年10月7日（火）～10月10日（金）

5 内容

	時間	科目	講師	内容
1 日 目 午 後	13:00	開 会		
	13:20	【講義1】 児童養護施設の今日的 課題	児童養護施設長	被虐待児の入所の増加に伴い、児童養護施設のあり方も大きな変化を求められている。被虐待児の援助のあり方など、児童養護施設が抱える今日的課題について理解を深める。
	15:20			
	15:45	【グループ討議1】 児童養護施設の現状と 課題の共有	参加者	それぞれの現場が抱える課題や取組みの工夫などについて意見・情報交換を行う。
	18:00			
	18:15 20:00	【交流会】		
2 日 目 午 前	9:30	【講義2】 子どもの発達と虐待	小児科医師 児童精神科医師	子どもの心身の発達と虐待が発達に及ぼす影響について学ぶとともに、これを踏まえた援助のあり方について理解を深める。
	12:00			
2 日 目 午 後	13:00	【演習】 生活のなかでの支援の あり方	パネラー：参加者	子どもたちの具体的なニーズにどのように対応していくかについて、討議や演習を行う。
	15:00			
	15:30 16:30	【リラクゼーション タイム】		

	時間	科目	講師	内容
3 日 目 午 前	9:30 11:45	【講義3】 施設における家族への 援助	学識者	虐待を受けた子ども達の入所が増えると同時に、その家族も援助を必要としているが、家族への対応や援助は多くの困難が伴う場合が少なくない。個々の家族を理解し、適切な援助を行うための援助のあり方を学ぶ。
3 日 目 午 後	12:45	【事例検討1】 子どもへの援助	発表者：参加者 助言者：臨床心理士	児童虐待ケースについて、援助が困難であったケースあるいは比較的上手くいったケースについて検討する。6グループの内、3グループが一緒になって事例検討を行う。
	14:30	【事例検討1】 (小グループ)	発表者：参加者 助言者：児童福祉施設経験者	上記の内容のケースについて、残った3グループは分かれて、別の事例を検討する。
	15:00	【事例検討2】	発表者：参加者 助言者：同上	上記の内容のケースについて、事例検討1(小グループ)で別々だった3グループが一緒になり、午前とは別の事例を検討する。
	16:45	【事例検討2】 (小グループ)	発表者：参加者 進行：同上	上記の内容のケースについて、事例検討1で一緒だった3グループが分かれて、グループごとに別の事例を検討する。
4 日 目 午 前	9:30 12:00	【講義4】 職員チームのあり方 ー良好なチームを目指してー	臨床心理士 児童福祉施設経験者	援助が難しい子どもに対して、チームで関わる必要があるが、一方で施設内の人間関係で悩む職員も多い。チームが歪む要因を理解し、良好なチームを作るためにどうあるべきかを学ぶ。
4 日 目 午 後	13:00	【グループ討議2】 現場の苦労を分かち合 う	参加者	日々の援助には多くの困難が伴う。疲弊する職員も多く、職員のメンタルヘルスケアも大きな課題となっている。現場での辛さ、苦痛を互いに分かち合い、情報を共有し合う中から、新しい援助の工夫を考える。
	15:30			
	16:00	終 了		